

## 「材料物性屋の小倉日記—新世紀を迎えて」



物質化学工学科 山根大和

4月からの小倉での新しい生活にも慣れて来た。山口県出身の僕は、小倉に来る以前10年程福岡市に住んでいた。福岡の人はとても温かく、V2を成し遂げたタイエーホークスの応援からわかる様に、熱狂的である印象を持っている。九州人のおおらかさと熱いところはとても魅力的であり、福岡は、非常に住みやすいところだと思う。

さて、最近街中で、お母さんと小さな子供がお揃いの茶髪でさっそうと歩いている光景を見かけた。小倉という土地柄かもしれないが、世間では髪の毛を染めることは、そう珍しくも無くなっている。北九州高専に金髪（ハ？）先生がいてもおかしくない。もっとも、個人的には、東洋人には黒髪が一番似合うと思う。個人的な趣味の問題かもしれないが、浴衣や羽織、袴に金髪はどうかと思う。黒髪的情緒を尊ぶのはすでに時代遅れかもしれない。また、服装もたいへん奇抜なものが世間では流行っている。

髪型や服装に関してだけでなく、人間に許されない行動は、時代とともにどんどん少なくなってきた。人はそれを自由だ、個性だと考える。本当の自由、個性とはなんだろう。君達は、服装や髪型でやかましく言われてムカつくかも知れませんが、本当のカッコよさについて真剣に考えたことがあるだろうか。見せ掛けだけか我が物顔に幅を利かせている今の世の中で、本物に一見することはとても難しくなっている。

例えば、僕は、外見の装飾に神経をすり減らしている人よりも、清掃の時に一生懸命協力してくれる人のほうが、価値があると思う。そういうことがさりげなくできるこそ本当のカッコよさではないだろうか。渾沌とした自由、個性の時代だからこそ、「行動の基本を大切にすること」が重要なのではないか。他人に追随するのでは無く、「よく考えて行動する」チヨットしたことか人格として大きな差となって現われてくる。勉強よりも大切なことがある、それは勉強よりも貴い。制服の白色シャツは、スボンの中に入れるからカッコよい。

北九州高専にやって来て、良い意味で最初に驚かされたのはKCT体育祭です。君達のその見事なチームワークには、正直驚いた。久し振りに良いものに触れ、感動した。素晴らしいことが実現できる君達高専生の行動力には全く脱帽です。時は今21世紀の幕を開けた。KCT体育祭で輝いていた君達が、さらに輝いてみえる君達のこれからの活躍に期待しています。